



Hostelling Magazine



巻頭インタビュー

コムアイ (水曜日のカンパネラ)

「迷惑をかける勇気」が、旅をもっと楽しくする。

Hostelling Magazine × 地球の歩き方 www.arukikata.co.jp

今後、見られなくなる可能性あり
今すぐ行きたい世界の絶景

Youth Hostel Pick up

ここにしかない自然と文化を育む
島とゲストの架け橋を目指して
屋久島ユースホステル

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





いつだって
どこだって

LUNCH PACK



ぼくらのミカタ。 **ランチパック**

Digital HI Membership

ユースホステル デジタルメンバーシップ



世界中のユースホステルで使える！

世界80の国と地域にあるおよそ3600ヶ所のユースホステルをリーズナブルなメンバー価格で利用できます！



PC または スマホ で登録！

登録は簡単3ステップ！クレジットカードまたはPaypalの決済後すぐに会員証がメールで届きます！
Apple Wallet / Android にも対応しています。



旅だけじゃない！Digital Member だけの特典も！

世界各国のユースホステルが提携している博物館や鉄道などの会員割引提携サービスはもちろん、日本国内の一部のユースホステルではDigital Member だけが受けられる特典をご用意しています。

スマホで旅する？
スマホと旅する？



登録はカンタン3ステップ！

- STEP 1** QRコードまたは日本ユースホステル協会HPから登録ページへ
- STEP 2** 必要項目を入力して規定を確認。
クレジットカードまたはPaypalでお支払い
- STEP 3** 世界中で使えるユースホステル会員証(PDF)がメールで届いて登録完了！



adt/hm14d



※画面はハメ込み合成です。



HOSTELLING
INTERNATIONAL

Vision

Principle and Philosophy

Inclusivity

世界を超えて

Learning and Understanding

考えよう

Sustainability

僕らと子ども達の未来のことを

日本ユースホステル協会はユースホステルのビジョンに基づき、日本国内にユースホステルを設置・運営すると共に、国際ユースホステル連盟や各国のユースホステル協会と協調し、知見を広める「旅」を促進する活動を行っています。

※本紙の情報は2019年9月20日現在のものです。変更になる場合がありますので、お出かけの前に現地にお確かめください。
発行所 一般財団法人日本ユースホステル協会
編集・発行人 寺島 眞
TEL (03) 5738-0546
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。
制作・印刷製本/サンメッセ株式会社

Line up

インタビュー P02
コムアイ(水曜日のカンパネラ)
「迷惑をかける勇氣」が、旅をもっと楽しくする。

Youth Hostel Pick up P08
世界自然遺産 屋久島
ここにしかない自然と文化を育む
島とゲストの架け橋を目指して
屋久島ユースホステル

Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12
今後、見られなくなる可能性あり
今すぐ行きたい世界の絶景
■近い将来、遺跡と化するであろう「死に行く町」

- コロニアルな街並みを、クラシックカーが駆け抜ける
- 世界最大のサンゴ礁群に忍び寄る危機的状況
- ここ50年で形が激変! 死海の今
- 100年で1km以上も! 衝撃的なアルプスの氷河の後退
- 遺跡背後の山を登り、絶景の展望台へ
- 世界から抜粋! おもしろユースホステル

Sustainable Tourism P20

教えて! 旅GIRL P22

松島むうの晴れときどき旅びより..... P23

巻頭インタビュー

「迷惑をかける勇気」が、
旅をもっと楽しくする。

アーティスト

コムアイ

(水曜日のカンパネラ)

2012年に音楽ユニット「水曜日のカンパネラ」としてデビューして以来、
"主演・歌唱"担当として水カンの世界観を表現し続けているコムアイさん。

その活躍ぶりは国内だけにとどまらず、

近年では欧米やアジアのライブ・フェスでも好評を博しています。

実は、コムアイさんは「生まれながらの旅人氣質」と言っても

過言ではないほど、大の旅好きだそう。

幼少期～現在までの

旅にまつわるエピソードについて伺いました。

3歳までに決定づけられた「移動」し続ける運命

— コムアイさんといえば、国内にとどまらず、海外でも幅広く活躍していますが、初めての海外体験はどのようなものでしたか？

「三つ子の魂百まで」ということわざがありますが、私、3歳になるまでに10ヶ国以上旅行していたんです。親が旅行好きだったので。記憶にはないんだけど、めちゃくちゃいろんなところに行っていて。覚えているところだと、タイ、韓国、オーストラリアとか。海外でよく吐いていたと親に聞いたのですが、各地で色々な菌をもらっていたみたいです(笑)。

— 物心がつく前からすごい経験をされていますね……。

だからなのか、移動しているのがすごく自分の性に合っている感じがしますね。ちなみに私は蟹座なんですけど、水に関係する星座って動き続ける性質があるとかないとか(笑)。今やっている音楽の興行の仕事は好きなんです。お芝居だと同じ場所ですばらくロケしたり稽古したりが多いと思うんですけど、ツアーやフェスは同じようなパフォーマンスをいろんな違う場所でやることで、お客さんに見てもらってから移動が仕事のような感じ。嫌じゃないというか、移動して疲れるっていうのはそんなにないですよ。飛行機には死ぬほど乗っているけど、いまだに、窓から見える景色は真新しい。あと乗り物で寝るのも得意で、どれだけでも眠れます。列車もいいし、船旅もいいですよ。車は免許を持ってないですが、運転しながら車中で歌えるのでいいなと思います。

— 記憶に残っている子どもの頃の旅行先は？

覚えている中で一番強い記憶は、幼稚園児の頃にハワイのマウイ島の山奥に滞在していたときかな。今でいうairbnbみたいな感じかな。雨漏りがすごくて、家中にバケツが置いてあった。お風呂の壁にゲッコウがいっぱい張り付いていた。海にはほとんど行かないマウイ生活で、帰ってきてから「あ、いまマウイの匂いがした!」って思うことが今でもたまにあります。潮ではなく湿った土の匂いです。

生まれ育った「東京」の対極 キューバへ向かった17歳

— 「匂い」が旅の記憶って素敵ですね。自分の意思で旅行をするようになったのはいつ頃からですか？

自分で意識して旅をしようと思ったのは15~16歳の時ですね。九州のおばあちゃんの家を目指して青春18きっぷを使って途中岡山とか広島とかにも寄りながら旅行しました。

17歳の時にはキューバに行っただけなんですけど、これは自分にとって大きなチャレンジでした。お金も周囲の人から集めて……

— 17歳で、ですか!?

そうです(笑)。「日本とは全然イデオロギーが違う国の同年代の言葉を聞きたい」って大義名分で。飛行機代は親に出してもらったん

ですけど、生活費は周りの人に協力してもらいました。友人と二人でお金を持ってそうな起業家の人たちにプレゼンをして回りました。「なんで自分たちはキューバに行きたいのか、帰ってきたらどう報告するのか」を説明して、一口1万円とかでお金を集めました。今考えると、まとまった額を一人が出さなかったのは、大人たちの優しさのように感じますね。キューバには3週間滞在したんですけど、節約しながら暮らしました。市場で買えるマンゴー1つが10円で、二人がお腹いっぱいになるくらいの量なので、毎日食べていました。きっと帰る頃は顔が黄色かったと思います。

— すごいですね……。なぜキューバの若者の声を聞こうと思ったんですか？

小学生くらいの時から自分の育った街が嫌いだったんですよ。他人とのコミュニケーションなく新興住宅街で育ったので、昭和はこうじゃなかっただろうと思ったり、下町への憧れもあったんですよ。日本は自殺率が高いですけど、その時は人生が楽しくなかったの、自殺する理由がわかるような気がした。なので、一般的に幸福度が高いと言われる国が見てみたくて、キューバかブータンが候補に上がって。ブータンの方が渡航費や税金が高かったんで、キューバにしました。

「お金がなければ幸せになれない」という価値観が覆った就農体験

今日本の若い子たちがあんまり旅行をしないのってお金の心配があるからなのかな？

— いろいろな調査を見ると旅に行かない理由として「経済的な理由」と答える若い人は多いですね。

日本と同じ感覚で他の国でもホテルに泊まろうと思って計算して、って感じなのかもしれないですね。そういえば思い出したんですけど、東京でホステル暮らしを何日かしていたことがあります(笑)。当時家を持ってなくて、「ホステルから出勤」みたいなことをしていましたね。

— ユースホステル設立の目的のひとつが、お金がないという理由で旅に出るのを諦めて欲しくないなっていうことで、どの国でも比較的お手頃な価格で泊まれるので「お金がない」っていうのがネックになっているのであれば、ぜひ使って欲しいと思っています! オーストラリアのユースホステル協会ではワーキングホリデー用のサポートプログラムもあって、現地のユースホステルと関わりの深い地元の農家の仕事を紹介したり、といったこともしていますよ。

オーストラリアといえば農業が盛んな国ですよ。そう言えば、私、高校時代に茨城県でファームステイを1ヶ月くらいしたことがあって。まったく自分がしたことのない体験で、「こういう風に物が生まれて、食べて、捨てたものがどうなるか」っていう、その時に一番自分が知りたかったことを感じる事ができたんです。それまでは自分がベルトコンベアーの一部分だけを担当している感じがしていて、なぜだか

それが小さい頃から嫌いというか気に入らなくて。何も知らないで、企業に勤めているだけの親や大人が尊敬できなかったところがあったんですよ。

それでファームステイした時に、本当にぐるっと循環しているんだってことを体感して。野菜や家畜を育てて、鶏に育てた野菜のクズとかをあげて、豚には私たちの残飯をあげて。で、豚糞をかき混ぜて、臭いもすごい強かったものが、ちゃんとだんだん肥料になって撒けるようになって……っていう。この時の体験は若いうちにやって一番良かったかも。なんというか、「生きていける」って思ったんです。資本主義の社会で、お金をすく稼がないと幸せにはなれないんじゃないかっていう価値観が自分の中で崩れたというか……。ファームステイは友達も結構オーストラリアとかカナダでやっていますけど、本当にオススメです。私も他の国でもしてみたいな。

自分の方向性を決めるため 旅に出る

—キューバ以外にも海外に旅行しましたか？

キューバの後にスペインに留学したりしましたが、その頃にはもう水曜日のカンパネラの仕事を始めていて。忙しくなって留学を最後にしばらく4~5年くらい長期のお休みも取らなかったの、旅行に行きたいって感覚もなくなってしまって、仕事のためになることしかしないみたいな生活が続いたんです。今思うと、「なんか違うな」と。ここ数年は余裕が出てきて、時間があれば旅行をしているので一年の半分ぐらいは家にいない……(笑)。

—コムアイさんにとって「旅」ってどんなものなのでしょう？

自分の今後の活動の方向を決めるために旅する、という感覚は結構あります。仕事で行くと結構ナーバスになってしまうので、仕事と分けて時間をとって行ったりしますね。ここ最近では、フェスを目指して行くっていうのが多いかな。規模が大きいものもあったり、小さいものもあつたりするんですけど、絶対日本では見られない面白いフェスって世界のあちこちにあるんですよ！

—世界のフェスの魅力について教えてください！

良いフェスって、運営する人たちや参加する人たちが「次の世界を創



画像：YouTube

る」と思ってやっているんですよ。なんというか、「未来はこういう感覚でコミュニケーションを取り合う都市ができればいいよね」ということを数日間だけ仮に出現させるみたいなことだと思うんですよ。ただの非日常のお祭りってことよりも、私はそういうタイプのイベントが好き。2~3週間みんながそこに寝泊まりしていろんな音楽を見ていると、私が今やっていることと、やりたいことがかけ離れているなっていうことをニュートラルに見られる。

旅を通じて外側の世界がどうなっているのかを知ると、普段自分が包まれている環境の中に余裕が出てくるんですよ。その環境の中で囚われずに生きることもできるから、今までと同じことをやるにしても、全然「強さ」が違う。そんなことに気づかされます。だから、旅はどんどんすべきだと思う！決して旅人になれって訳じゃなくて、例えばサラリーマンを続けるのも良いんだけど、外に出て色々見て、感じて、どこで誰がどんなことをしているかを知った上で、自分が今やっていることをもう一度振り返る。それで自分の現状を「イエス」と感じられたら今の仕事を続けたい。戻った時、それまでと仕事の力強さが違うと思う。

インドで感じた“ふるさと”東京に 無理やり自分を 住まわせていることに気付く

—これまでに一番影響を受けた旅先は？

2019年の1月に滞在した南インドは、初めて行ったのにすごく故郷(ふるさと)って感じがしました。東京で故郷をロストした感じっていうのが、南インドに行った瞬間に「ここだ!」としっかりきて。多分インドって、ある一定の人にとってそういう性質があるんだと思うんですけど、すごく安心しました。

そこでセルビアのおじいさんに出会ったんですよ。向こうで会った人の家に泊めてもらっていたんですけど、そのホストの人が「面白いおじいさんがいるから、その人と一緒にハウスポートで一日出かけようよ」と感じて誘ってもらったんです。けどなんかそのおじいさんが「YouTubeで見た映像と全然違う!」って怒っちゃって。期待していたものと違ったのかな?10年前に撮影されたYouTubeの映像がそのままあるって思っていたのもうかと思うんだけど(笑)、その怒っているおじいさんを見ながら思ったのは、期待したことが実現しないのに、私は毎日日本にいるよりも全然楽しいってこと。インドでは3を期待していて1が出ることも結構あるけれど、1だと思っても6が出ることもあるから。それを見逃しちゃいけないんですよ。3が1になったことに注目していたら、1が6になったことを見逃すんですよ。それで帰ってきてから、他人が思い通りにならないことに怒らないというか、自分の心があまり動揺しないというか。

—それまでとは価値観がガラッと変わったんですね。

そうですね。あと、自分が都市からどんどん離れようとしていることにも気付きましたね。滞在期間も長くてどこに行っても良いっていう旅が久しぶりだったから。それに一人だったし。そうなった時、田舎で滝がある方とか、湖がある方に足が自然と向いていたのを自分で振り返って、「あれ、なんで私は東京に住んでいるんだろう?」って。無理やり自分を住まわせている感じ。そう感じて、ちょっ

と反省したり、実感しましたね。

自然の強さ、集落の人々との出会いに 感化された屋久島での体験

— 日本と言えば、昨年は屋久島を訪れて、現地の方々との交流や
楽曲制作の様子をYouTube Originalsで公開されていますよ
ね？屋久島はいかがでしたか？

屋久島はとにかく水の島！とにかく雨が降って、山の自然がドーンと真ん中であって、その谷の隙間で人間がこっそり暮らしてきた、という印象です。集落同士の付き合いも昔はそんなに無かったみたい。今は車で簡単に一周できますが。

意外だったのは、本州っぽい雰囲気だったこと。ガジュマルもあるんだけど、沖縄ともちょっと違って、本州で見たような木もいっぱいあるんですよ。標高の高いところからすぐに海に続いていくから、いろんな生態が詰まっているようでした。でも、哺乳類はすごく種類が少ないんですよ。

— 植生にお詳しいんですね！

「オハラさん」っていう私がすごく好きな屋久島のガイドさんがいて、その人に色々教えてもらいました。苔とか地質学とか、昆虫とかにすごく詳しいけど、わからないことは「わからない」ってちゃんと言うしてくれるから信用できる方。あとは妖怪も好きで、民俗学とかもすごく詳しい人なんですよ。声が森本レオさんみたいで超癒されるんです(笑)。一緒にループを持って、森に入って色々なことを教えてもらいました。大きな地図を広げながらプラタモリみたいの説明してくれたりとか。話を聞くのが楽しかったなあ。

— 他に印象的な出会いはありましたか？

あとは、おばあちゃんたちに会えたのが良かったですね。中間(なかま)集落ってところがあって、そのおばあちゃんたちは、80~90歳のグループが近くの民家に集まって、喋ってくれたり、唄ってくれたのを録音して、屋久島で制作した楽曲に使わせてもらいました。おばあちゃんたちが喋っている声は、まるで一匹の動物みたいなんですよ。『ざわざわざわざわざわわー』って全員が話す声が全部繋がっていて、で、ふっと終わったと思ったら、また風がざわーって吹くみたいに『ざわざわざわわー』って始まって。ずっとそれを聴きながら昼寝したい感じだった。おじいさんやおばあさんとの出会いや交流は、どこの国とか場所に行っても、本当に嬉しい。年々そういう気持ちが強くなってきています。

次に目指すのは 「無意識の記憶」を辿る旅

— コムアイさんが次に行ってみたい旅先を教えてください！

またインドに戻りたいかなあ。次は歌を習いに行きたいですね。あー、でも他にもめっちゃくちゃいっぱいあるな……。中国の雲南省にも行きたい。それも目的は歌なんですけど。音楽とか祭が見れたり、ナーガ族とかのライチョウ祭とか。国内だと岐阜県の「郡上おどり」に行く予定なんですけど、それも私の中では結構同じ感じですか



Profile

コムアイ (水曜日のカンパネラ)

1992年生まれ、神奈川県育ち。

アーティスト。ホームパーティで勧誘を受け歌い始める。「水曜日のカンパネラ」のボーカルとして、国内だけでなく世界中のフェスに出演、ツアーを回る。その土地や人々と呼応して創り上げるライブパフォーマンスは必見。好きな音楽は民族音楽とテクノ。好きな食べ物には南インド料理と果物味のガム。

音楽活動の他にも、モデルや役者など様々なジャンルで活躍。2019年4月3日、屋久島とのコラボレーションをもとにプロデューサーにオオルタイチを迎えて制作した新EP「YAKUSHIMA TREASURE」をリリース。同名のプロジェクト「YAKUSHIMA TREASURE」として各地でライブやフェスに出演中。



ヘアメイク:SAKIE (FLEURI) / スタイリスト:risa kato / フォト:上田崇

<アイテム/プライス(税抜)/ブランド/問い合わせ先>
ドレス/¥130,000/ミントデザインズ (tel:03-6450-5622)
ブーツ/¥112,000/スチュアート・ワイツマン/スチュアート・
ワイツマン カスタマーサービスジャパン (tel:0120-668-056)
その他/スタイリスト私物

ね。他にも富山県の「おわら風の盆」とか、今年は盆踊りが見たくて。あとは諏訪大社に今度行くんだけど、諏訪の「ミシャグジ信仰」っていうのを見に行きたくて。そういう宮本常一(民俗学者)的な、おじいさんみたいな旅行を始めていますね(笑)。あとは……。

——さまざまな土地を訪れることで人間が無意識に共通してもっているものを探している、そんな感じでしょうか？

はい。そこを吸収したいですね。それが私にとっての遊びでもあるし。なんか仕事のためって思いたくないんですよ。旅行は全部自分のためで、仕事のためなだけけど仕事って思っていないから。自分の仕事は仕事じゃないから。これからは音楽、歌をやっていくんですけど。色々な歌う人を見たり、音源を聞いたりとかするときに「これは気持ちが持っていられるな」って思うのは、アイヌのおばあちゃんの声だったりとか、雲南省の人のハーモニーとか、インドのラーガとかヒンドゥスタニとか、そういうのを聴いて感じます。今はアジアばかりですが、そのうち北欧や東欧やアフリカにも興味に移ると思います。

——1年の半分を費やしても足りませんね(笑)。行き先の軸になっているのはその土地に根付いた音楽や踊りですか？

そうですね。自分と共通するものはどこにでもあると思っているんです。自分のファミリー・ツリー(家系図)って遡ったら何人いるかわか

らないけど、世界中に広がっている訳じゃないですか。三木成夫(解剖学者・思想家)っていう学者さんの本を読んだ時に、その方が『胎児の世界 人類の生命記憶』っていう本を書いていて、無意識の記憶の話をしているんです。例えば毎日通っていて、別に覚えようと思っていないのに、なんか昔の通学路に行けば色々な感覚を全部覚えている。無意識の記憶ですね。それって、死んで次の世代にいても残っちゃうんじゃないかと思っていて、覚えようと思ったことだけではなくて、痛い思いをしたとか、トラウマとか、なんかこの哺乳類に喰われそうになったとか(笑)、なんかそういう風に思っていて、その本を読んだ時にしっくりきて、そういえばどの国に行っても懐かしいなって思う瞬間があるなって。

——無意識に世代を超えて受け継いできたもの？

そうですね。海を触って「懐かしい」って思ったり、海の向こうから来た記憶があるとか。なんかそういう素敵なことは信用していて、ちゃんと拾って、無視しないでいこうと思っています。だから雲南省のハーモニーだったりも音源じゃなくて現地で聴きたい。空気中にどう響いているのか聴いてみたいっていうのもあるし、何より現地に行くとか、なんでそういう発声なのかがわかってくるんです。わかるっていうか、声とか踊りとか、土地の食べ物とか空気を吸っているうちに、自分の体に変化しているのが面白くて。行ってやっつる方が絶対上達するだろうなって思いました。

旅先では人に頼りまくる 頼ったことがきっかけで 出会いが生まれる

— コムアイさんはどこへ行っても良い出会いをされていますよね。まだ旅馴れていない読者に旅を楽しむコツを教えてください。

とにかく迷惑を人にかける？人を頼ってお願いをしてちゃんとお礼をする。お礼を言う。恩を覚えていく。で、頼りまくる。いろんな人を自分から捕まえて頼る。私、インドに行く前に「インドは危ない」って言われたんですけど、私は危ない人に捕まる前に周りの人を私が捕まえれば良いと思っていて(笑)。そっちの方が確率が高いじゃないですか？たまたま悪い人に声をかけちゃったらすげえけど。

— 旅先で迷惑をかけた分、普段の生活に戻った時に旅している人を助けてあげられると、いい世界になりますよね。

そうですね。でも、ちゃんとその場で自分が「本当に助かった」と思っていれば、その助けた人も救われているんじゃないかなとも思うんです。私は「迷惑かけるな」って言われて育ったのは良くなかったんじゃないかと思っていて。なんだろうな。いろんな人に頼って、もつとちゃんとお礼をすることを習うべきだったと思うし、そう教えなきゃと思う。人に頼むことがきっかけで仲良くなれることもあるし！

数年前にアメリカの皆既日食フェスにひとりで行った時も、寝袋をどこかに落としちゃったけど現地が良い人に声をかけてその人の車に転がり込ませてもらいました(笑)。大変だけど、そういうハプニングもまた旅の楽しみですよ。



YouTube Originals

Re:SET

YouTube クリエイターやアーティストによるオリジナルシリーズや、映画を視聴できるサービスとしてスタートしたYouTube Originals。

そのオリジナル作品として今年4月からYouTubeで配信されている水曜日のカンパネラ・コムアイの音楽ドキュメンタリー。

世界自然遺産の屋久島を訪れたコムアイが、現地の人々や壮大な自然に身を委ね、フィールド・レコーディングを行いながら、新たな楽曲を生み出す姿を追いかけた。最終エピソードのMVは、コムアイと屋久島大自然がCGと融合して生まれた超大作。

出演：コムアイ (水曜日のカンパネラ)

監督：(Documentary) 鈴木童也 (MV) 鎌谷聡次郎

プロデューサー 阿部聡 高島華子 松原史和

©Amuse Inc.

CHECK

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLIOagMHR9NsTav7wntXI4Vs-IX0LfEbpm>



PRESENT

コムアイさん **サイン入り色紙**
抽選で **3名様に** **プレゼント!**

ご応募は日本ユースホステル協会
ホームページの専用お申込みフォームから!

<http://www.jyh.or.jp/hm/>

※なお、当選発表は、商品の発送を以てかえさせていただきます。

応募締切 2019年11月末日



つづきをダウンロード(無料)



Hostelling Magazine vol.18
まとめてダウンロード



Sustainable Tourism P20



インタビュー P02
コムアイ(水曜日のカンパネラ)
「迷惑をかける勇気」が、
旅をもっと楽しくする。



教えて! 旅GIRL P22



Youth Hostel Pick up P08
世界自然遺産 屋久島
ここにしかない自然と文化を育む
島とゲストの架け橋を目指して
屋久島ユースホステル



松島むうの晴れときどき旅びより..... P23



Hostelling Magazine × 地球の歩き方... P12
今後、見られなくなる可能性あり
今すぐ行きたい世界の絶景
■近い将来、遺跡と化するであろう「死に行く町」
■コロナ禍な街並みを、クラシックカーが駆け抜ける
■世界最大のサンゴ礁群に忍び寄る危機的状況
■ここ50年で形が激変! 死海の今
■100年で1km以上も! 衝撃的なアルプスの氷河の後退
■遺跡背後の山を登り、絶景の展望台へ
■世界から抜粋! おもしろユースホステル

発行所: 一般財団法人日本ユースホステル協会 編集・発行人 寺島眞
〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1国立オリンピック記念青少年総合センター内
印刷・製本: サンメッセ株式会社
※本誌の情報は2019年9月20日現在のものです。
変更になる場合がありますので、お出かけになる前に現地にお確かめください。
※本誌掲載記事の無断転載を禁じます。